

特集◆◆◆◆《海技の伝承》 救命筏の基礎知識

◆ 船員の命を守る ◆⑨ 生き抜くために必要な「救命いかだ」の知識

洋上を航行する船舶には海難に遭遇した場合に備え、命を守るための救命艇や「救命いかだ」などが設備されており、万が一の不幸な事態を避けるため、救命いかだに関する知識は必要不可欠である

「生存指導書」でのポイント

「生き抜くために望みを捨てるな。救助は必ずやってくる。」

必ず救助される機会は得られる。この希望を捨ててはならない。

船酔い防止

健康で乗艇した人々の、まず、第一に考えなければならないことは船酔いの防止である。

救急係か、その補助者は、ゴムボートに備えつけてある応急医療具の中から船酔い防止の薬を取り出し、特に重症者を除いて他の人々に薬を配給し、薬の仕様どおり服用させる。

薬を服用すると眠くなってくるが、これは薬が効いてきた証拠だから心配はいらない。

ほとんどの人は、薬を服用後48時間たてば、船酔いは治り、体はすっかり救命艇やゴムボートに慣れてくるから、残った薬は、この後も体の調子の悪い人たちに飲ませるか、万一の用意にとっておく。

船酔いは精神的な面もあるので、この薬を服用すれば決して酔わないという暗示と自信をあたえることがよい。船酔い者には、

- ①できるだけ新鮮な外気に当たらせるようにする
- ②顔や額を濡れ手拭でぬぐう
- ③吐いたものは早く捨て、人目につかぬようにする
- ④チューインガムは、案外予防にも回復後にも有効なことがある

「海員だより」